

千葉県健康福祉部

障害福祉課

課長 山田 勝土 様

申し入れ書

私たち知的障害をもつ子どもの家族は、我が子らを幼少時から慈しみながら養育してきましたが、障害の重さや問題行動等への対応に難渋をしたり、理解が広がったとはいえ障害者に対して社会の受け入れは厳しいものがあります。そのような社会状況の中で、家族の社会参加、家族の共倒れを防ぐため、また、親亡きあとのことを考え、わが子らを障害者支援施設にお願いしております。

その我が子らの支援には、利用している施設職員の方々に大変なお世話と支援を頂戴しており、感謝をしているところです。

しかし今回、わが県の模範とすべき県立の福祉施設でこのような虐待が日常的に行われていたことに、大きな衝撃を受け、不安と動揺を禁じ得ません。

袖ヶ浦福祉センターに入所している利用者の権利擁護と安全で安心できる生活が維持されることを切に望み、下記の申し入れをいたします。

記

1. 今回の虐待事件を「個人の資質の問題」として片づけないでください。
千葉県社会福祉事業団に運営委託された県立施設の管理運営上の問題として、徹底的に原因を究明し二度と同じ事件が起こらないよう改善をお願いします。
2. 今回の虐待事件を理由に、本人や家族の意向を無視した施設の閉鎖などは行わないでください。
支援体制を見直すなどの改善を早急に行い、模範となる県立施設としての役割を迫ってください。
3. 支援職員はもとより、その管理者の適性を十分考慮するとともに、適切な職員配置を行ってください。
直接支援をする職員は、常に自分の支援が適切なのかという不安と向き合っています。
そのため、職員同士が日常的にその不安や支援方法について気軽に話し合える職場環境が必要です。そのマネジメントや職員の育成を行う管理職は、専門的で高い資質を必要とします。また、障害の状況やその支援に適した職員配置を整えることは支援の質及び量を確保するだけでなく、今回のような事件を防ぐことにも

つながると確信しています。

4. 保護者会との連携を密にしてください。

我々は、設置運営者と利用者はもとよりその家族との日々の協同活動が活発なほど、より良い施設になることを知っています。現状の袖ヶ浦センターと入所する人の保護者会の関係を改善するため、当分の間、施設及び事業団の主催で保護者会を定期的を開催し、施設の状況を説明すると共に保護者会との融和を図ってください。

開かれた、明るい施設を保護者は願っています。

5. 虐待を防ぐための仕組みを抜本的に見直してください。

なぜ、障害のある利用者を一方的に力で押さえつける行動が起きるのか原因を考えてください。

平成26年1月7日

千葉県知的障害者支援施設家族会連合会

会長 篠島 治男